

教えて！墨のこと

今回は、墨のメーカーである墨運堂・東京店（千葉県松戸市）に伺いました。墨運堂の本社はなんと二百年以上です。東京店店長の松井昭光さんにお話をお聞きしました。



▲液体墨

▲固形墨

固形墨は桐箱に入れて売られていることが多い。

墨のことって、意外と何も知らないなあ。



どんなお話が聞けるのか、楽しみだね。



イラスト：北村ケンジ

1 墨の歴史

——そもそも墨はいつ頃できたのか、教えていただけますか。

中学生のみなさんが「墨」というと、思い浮かべるのは、液体の墨でしょうか。

——はい。学校の授業では墨液を使うことが多いので……。

中学校の書写の授業では、手軽に使える「液体墨」（墨液）を使うことが多いですね。墨には、ご存じのとおり、硯で磨って使う「固形墨」もあります。

墨は、固形墨から始まり、中国から伝わりました。その歴史は古く、漢の時代



▲墨磨機
機械に固形墨をはさみ、水を入れて電源を入れると、自動的に墨を磨ってくれる。

——それは意外ですね。なぜ液体墨は生まれたのですか。

やはり、もっと手軽に墨を使いたいという声が多かったのでしょう。昭和二十五年に水で溶かして使うペースト状の「練墨」ができ、その後液体墨が開発されました。当時は、固形墨の代用品という位置づけでしたが、今では固形墨よりも使う人が多くなっています。

2 固形墨と液体墨の違い

——固形墨と液体墨では、書き味にどのような違いがあるのですか。

固形墨は自分で磨るため、濃淡をつけたり、いろいろな表情を出したりするこ



▲固形墨と液体墨の違いについて説明する松井さん。

とができる。また、粒子が細かいため、見た目は艶っぽく優雅になることが多いですね。

——いっぽう液体墨は、一定の濃度で製造されているので、見た目がやや平板になります。粒子が粗いため、墨を黒く、力強く見せたいときにいい。豪快さを出すことができます。

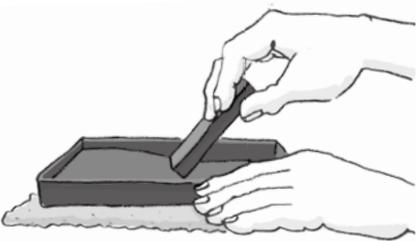
——作品によって固形墨と液体墨を使い分ける書家の先生もいます。また、大きな作品を書くときは、大量に墨を磨るのが大変なので、液体墨を使うことが多いようです。しかし、固形墨を使って大きな作品を書きたいという人もいますので、自動で墨を磨る機械があるんですよ（右写真）。高校の書道部などでも使われているようです。

——固形墨と液体墨で、扱い方に違いはありますか。

固形墨には、「墨は成長する」という言葉があり、年数を経ることで、書き味がよくなっていくのが特徴です。二十〜五十年経った固形墨を「古墨」と呼び、ものによっては、たいへん価値があります。

固形墨を硯で磨るときは、左図のように垂直にせず少し斜めにし、時々、裏返して磨り口がV字の形になるようにするとよいと思います。力を入れすぎないようにすることも大事です。使い終わったら、反故紙などできれいに拭き取り、桐箱に入れ、直射日光が当たらない涼しい場所ので保管しましょう。よい条件で保管すれば、何十年と使い続けることができますので、丁寧に扱いたいものです。

——いっぽう、液体墨は製造されてから、ゆっくりと腐敗が始まります。なぜか「墨



▲墨の磨り方



1 煤を採取する (採煙)

素焼きの器に植物油を入れ、灯芯を燃やし、蓋に付いた煤を採取する。



2 煤と膠を 混ぜて練る

膠を長時間煮て液体にし、液状になった膠と煤を「混和機」という機械にかけて練り合わせる。その後、混和機から取り出し、さらに職人が手で練って、香料を加える。



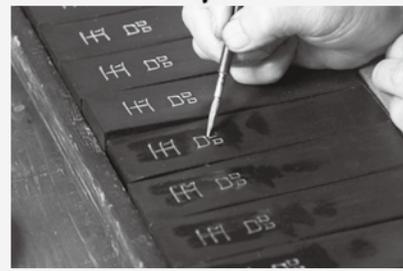
3 型に入れる

墨を入れる木型は四つほどのパーツに分かれている。そのパーツを組んで、練った墨を型に入れる。繊細で緻密な作業のため、職人の腕が試される。その後、プレスし、墨の形にする。



4 乾燥させる

木型から取り出した墨は、1日目は水分の多い木灰に埋め、2日目以降は少しずつ水分の少ない木灰に埋めてゆっくりと乾燥させる。灰の乾燥が終わったら、無風の室内で1~2か月乾燥させる。



5 彩色・包装

乾燥したら水洗いし、墨の表面を磨く。再び乾燥させ、その後、金粉・銀粉などで一つずつ彩色していく。紙で組み箱に入れて完成。小さな墨でも型入れから包装まで最低3か月はかかる。

墨ができるまで

〜固形墨編〜

今回は固形墨ができるまでの主な工程をご紹介します。
墨運堂では、墨の製造期間中に工場見学を受け付けています(要予約)。
実際に墨づくりの現場を見ることで、さらに墨への理解が深まることでしょう。



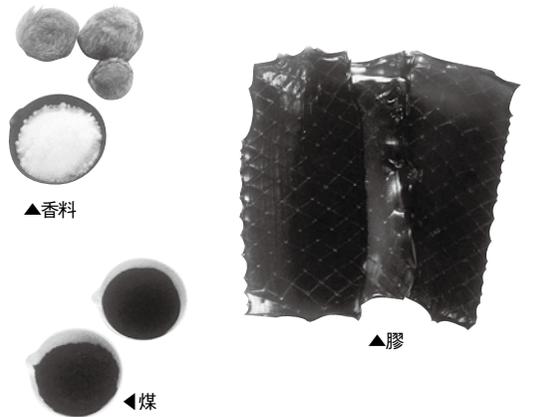
3 墨の原料と作り方

——固形墨と液体墨の原料は同じなのですが。

基本的には同じで、原料は、煤・膠・香料です。液体墨の場合、それに水が加わり、防腐剤が入ることがあります。膠でなく合成樹脂を使うこともあります。煤には、油煙・松煙・工業煙の三種類があり、油煙は、菜種油など植物性の油を燃やして採取します。松煙は、松の木を燃やして採取するのですが、今では自然保護の観点から行われていません。工業煙は、軽油などを燃やして採取します。

——膠というのは、どのようなものですか。

動物の骨や皮などを、水を加えて煮沸してつくる、コラーゲンを含むゼラチンを主成分とした動物性タンパク質の一種です。膠は、墨作りに欠かせない原料ですが、非常に強い臭気があるので、墨を作るときは、必ず香料を加えます。私たちが龍脳という天然香料や人口香料を使うことが多いですね。固形墨を磨ったときに感じるいい香りは、香料によるものです。



▲香料

▲膠

◀煤

——墨は、どのようにして作られるのですか。

煤を採取する「採煙」に始まり、さまざまな工程を経て作られます(P23参照)。特に、墨を練ったり、型に入れたりするのは、経験を積んだ職人にしかできない、緻密な作業です。

また、膠が動物性タンパク質で腐敗しやすいため、墨は暑い時期に作る事ができません。ですから、毎年十月から翌年の四月に製造しています。

墨運堂本社には「墨の資料館」があり、墨の製造期間中は墨づくりの工程の展示を見たり、墨の型入れを見学したりすることができます。ぜひ予約してお越しください。

——ぜひ見学に伺いたいです。今日はありがとうございました！



ぼくうんどう
墨運堂

本社 奈良県奈良市六条 1-5-35
TEL: 0742-52-0310
東京店 松戸市小金ぎよしヶ丘 4-10-2
TEL: 047-347-5100
URL: www.boku-undo.co.jp